

末松廃寺跡で大発見

8月上旬、国指定史跡の末松廃寺跡において、瓦塔の一部が見つかりました。瓦塔とは、塔を建てる代わりに置かれ、人々の信仰の対象とされた1.5mほどの土製品（焼き物）のことです。

末松廃寺跡では平成26年度から再整備を目的とした発掘調査を行っており、今回見つかった「女子像が線刻された土製品」は、中門を確認するための調査において発見されました。

末松廃寺跡とは・・・

末松に所在する古代の寺院跡です。昭和14年に国史跡に指定され、昭和46年には史跡公園として整備されました。昭和41年から42年に行われた発掘調査の結果、7世紀後半（白鳳時代）に建立し、西側に金堂、東側に塔が並ぶ法起寺式と呼ばれる建物配置がなされ、8世紀中頃（奈良時代）に建て替えがあったと考えられます。

女子像が線刻された土製品



写真撮影：(独) 国立文化財機構
奈良文化財研究所 中村一郎氏

寸法：縦 19cm、横 9.5cm、厚さ約 1.5cm

形状：板状の土製品

発見場所：中門推定地区

種類：瓦塔と呼ばれる焼き物の一部

特徴：表面には女性とみられる絵が描かれている。女性は裳と呼ばれるロングスカート状の衣服を身に着け、履をはいている。手には儀式などに使う道具（^{ほっす} 払子）を手にしている。

意義：高貴な女性を描いたものと考えられる。瓦塔にこのような絵を描く例は他になく、全国初の出土例である。



瓦塔の復元模型
(七尾市教育委員会提供)

☎ 文化課 ☎ 227-6122

「女子像が線刻された土製品」を特別公開！！

今回の発見を記念して、学びの杜ののいち カレードおよびふるさと歴史館で土製品の特別公開を行います。また、末松廃寺跡の発掘調査現地も公開します。貴重な発見となった土製品はもちろん、歴史の魅力が詰まった発掘調査地もぜひ見に来てください。

～土製品の公開～

【学びの杜ののいち カレード】

11月1日(木)～13日(火) (水曜休館)

【市ふるさと歴史館】

11月15日(木)～12月16日(日) (月曜休館)

～発掘調査現地の公開～

【末松廃寺跡】

11月4日(日) 10:00～14:00

※ 10時から30分程度、調査担当者による説明会を行います（雨天決行）